

信州がんセンター 緩和ケア部門

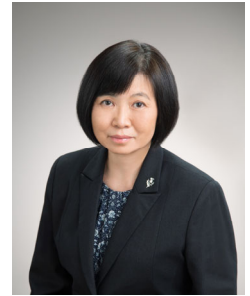
診療科の特色

・緩和ケア認定登録医・専門医および緩和ケアを担う医師の育成

信州大学における緩和ケアは、緩和ケアチームの活動と緩和ケア外来により構成されています。緩和ケアチームには年間約250例の新規患者紹介があり、緩和ケア外来では年間延べ800～900例の診療を行っています。

対象はがんに限らず、心不全、腎不全、呼吸困難や神経難病など多岐にわたり、幅広い症例を経験することが可能です。

また、国内で使用可能なすべてのオピオイド製剤の処方が可能であり、それぞれの薬剤の特性や使い分けについて実践的に学ぶことができます。



緩和ケア部門
特任教授 間宮 敬子

緩和ケアチームは、身体症状担当医、精神科医、歯科医、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、歯科衛生士、医療ソーシャルワーカーなど、多職種で構成されています。定期的に多職種カンファレンスを実施しており参加を通じて包括的かつ横断的な医療を実践的に学ぶことができます。

さらに、長野県内の地域がん診療連携拠点病院においては、緩和ケア専門医の専従での配置が求められており、当院は県内の中核施設として教育および指導体制の整備を継続しています。当院は都道府県がん診療連携拠点病院であるとともに、日本緩和医療学会認定研修施設でもあり、緩和ケア専門医の取得や研究を志す若手医師にとって最適な環境を提供しています。

専門研修の魅力

1) がん患者に対する緩和ケアの習得

がん患者の身体症状および精神症状を適切に評価し、治療計画を立案・実施する能力を習得できます。また、がん治療に伴う副作用を的確に把握し、それに対する適切な対応・治療を提案できるようになります。

2) 非がん患者に対する緩和ケアの習得

非がん患者における身体症状および精神症状を評価し、個々の病態に応じた治療計画を立案・実施する能力を習得できます。

3) 多職種連携の実践能力の習得

医師のみならず、看護師・薬剤師・リハビリスタッフ等の多職種と連携し、患者および家族に対する包括的な緩和ケアを実践できる能力を養うことができます。

4) 家族ケア・グリーフケアの習得

患者家族への支援および遺族に対するケア(グリーフケア)の基本的な考え方と実践方法を習得することができます。

5) 臨床研究および基礎研究への取り組み

新規開発の鎮痛薬や症状緩和薬に関する臨床研究、神経ブロックや鍼治療に関する臨床研究、がんサバイバーの慢性疼痛に対する臨床研究、さらにラットのモデルを用いた疼痛治療に関する基礎研究に取り組むことができます。

研修カリキュラム

・緩和ケア認定登録医をめざす研修

日本緩和医療学会の認定研修施設である当院において、6か月以上の研修を行い、50例以上の症例を担当していただきます。あわせて、5例の症例報告書を作成し、日本緩和医療学会学術大会への参加、ならびに学会が指定するセミナー・研修会を受講していただきます。当院では、これらの要件達成に向けた指導に加え、筆記試験対策の支援も行います。

・緩和ケア専門医をめざす研修

日本緩和医療学会の認定研修施設である当院において、2年以上の緩和医療に関する臨床研修を行なっていただきます。その間に、自ら担当した症例20例の症例報告書を作成し、緩和医療に関する教育歴を2件以上経験していただきます。さらに、緩和医療に関する筆頭著者としての原著論文または症例報告を作成、もしくは日本緩和医療学会において学会発表を行っていただきます。

これらの達成に向けた研究・発表指導に加え、筆記試験および口頭試問の対策についても支援します。

取得できる専門医、資格など

緩和ケア

日本緩和医療学会 認定登録医 専門医

ペインクリニック

日本ペインクリニック学会 専門医

麻酔科でペインクリニックの研修を行うことが基本ですが、緩和ケアでの研修期間もペインクリニック専門医の取得にカウントすることができます。

漢方

日本東洋医学会 漢方認定医 漢方専門医



2025年度 緩和ケアチーム

サブスペシャリティ・学位取得の道筋

緩和医療は日本専門医機構の基本19科には入っておりません。まずは基本19科の専門医を取得されることをお勧めいたします。基本19科の専門医取得途中の方で緩和ケア認定医を取得したい方は、所属の医局や病院の指導医の了解を得た上で、緩和ケアの研修を行うことは可能です。緩和ケア専門医のみを取得したい方は、直接当センターに所属することも可能です。

緩和ケア認定登録医(日本緩和医療学会)

緩和ケア専門医(日本緩和医療学会)

・学位取得に関して

希望される場合は基本19科での医学博士課程(学位)に所属しながら、緩和ケアの研究を行っていただくことが可能です。

大学院での研究テーマ、臨床研究のテーマなど

- 1) QOLの向上を目指した疼痛緩和におけるインターベンショナル治療の有効性の検討
- 2) 非薬物療法を用いた緩和ケア介入の効果および有用性の検討
- 3) 薬物療法を用いた緩和ケア介入の効果および有用性の検討
- 4) がんサバイバーの慢性疼痛に対するオピオイド使用の現状把握と対策の検討 など

国内留学・海外留学

・国内留学

国立がんセンター等での緩和ケア臨床研修
インターベンション治療を習得するための短期留学

・海外留学

カナダ、アメリカなど海外の研修施設での臨床研修、見学

将来の就職先など

- 大学病院での指導者、研究者を目指す
- 地域がん診療連携拠点病院に勤務
- 長野県内外の緩和ケア病棟に勤務
- 在宅支援医療機関などに勤務
- かかりつけ医として開業
- 国内留学、海外留学

連絡先

信州大学医学部附属病院 信州がんセンター内 緩和ケアセンター

■住所: 〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1 ■電話: 0263-37-3562 ■FAX: 0263-37-3562

■E-mail : pct@shinshu-u.ac.jp

■U R L : <https://wwwwhp.md.shinshu-u.ac.jp/cancer-center/patient/palliative.html>

<https://wwwwhp.md.shinshu-u.ac.jp/cancer-center/about/care-message.html>

■専門研修プログラムの詳細は、信州大学医学部附属病院HP 卒後臨床研修センター → 専門研修[信州がんセンター緩和ケア部門]